

丸山 英二（英米法・教授）

1．研究活動の概要

この期間における研究活動は、主として、インフォームド・コンセント、臨床研究、遺伝医学、生殖補助医療、疫学研究・公衆衛生活動、医療記録の開示、個人情報保護、臓器移植、精神医療などに関する法律問題を対象とするものであった。それ以外には、わずかのアメリカ法一般に関する研究を著したのみである。

2．教育活動

(1) 学部講義・演習

1998 年度前期に「英米法」（昼間主コース、夜間主コース）を、1999 年度前期に「英米法」（昼間主コース）を、2000 年度前期に「英米法」（昼間主コース、夜間主コース）を担当した。1999 年度後期に「特別講義・比較法文化」において、医療問題に関するアメリカ法と日本法の対応の比較を試みた。また、1998～2000 年度後期に「特別講義・信託法」の一部を担当した。

1998 年度から 2000 年度にわたり「英米法演習」を担当し、アメリカ法と日本法を素材に医療をめぐる法律問題を扱った。

(2) 大学院特殊講義

1998 年度～2000 年度の各後期に「英米法特殊講義」において、E. Allan Farnsworth, An Introduction to the Legal System of the United States (3d ed. Oceana 1996) を講読し、1999 年度後期に「公法特殊講義（比較法文化）」において、医療問題に関するアメリカ法と日本法の対応の比較を試みた。また、1998～1999 年度後期に「私法特殊講義（信託法）」、2000 年度後期に「信託法特殊講義」の一部を担当した。

3．公表された著書・論文等

(1) 著書・編著

なし。

(2) 論文

「施行後半年余を経た臓器移植法」法律時報 70 巻 8 号 2～5 頁（1998-07）

「臨床研究に対するアメリカ合衆国の規制（シンポジウム・臨床研究）」年報医事法学 13 号 51～68 頁（1998-08）

「医療記録に対する患者のアクセス権——英米の法律（特集・診療記録の開示と法制化の課題）」ジュリスト 1142 号 49～55 頁（1998-10）

「生殖医療をめぐる——生殖補助医療技術を中心に」法律時報 71 巻 3 号 1～3 頁（1999-03）

「脳死説に対する若干の疑問」梅原猛編『「脳死」と臓器移植』218～39 頁（朝日文庫，朝日新聞社，2000-01）

「生殖補助医療技術と出生前診断におけるインフォームド・コンセント」産婦人科の世界 52 巻春期増刊号『Bioethics——医学の進歩と医の倫理』186～91 頁（2000-03）

「クローン，ES細胞，遺伝子研究に関する生命倫理」法律時報 72 巻 7 号 1～3 頁
(2000-06)

「子どもに対する遺伝子検査の法律問題」年報医事法学 15 号 15～22 頁 (2000-07)

「医療・医学における個人情報保護——医学研究・地域がん登録・医療記録開示」ジュリスト 1190 号 69～74 頁 (2000-12)

「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する最近の政府指針」ジュリスト 1193 号 49～56 頁
(2001-02)

(3) その他

(a) 解説・分担執筆

「遺伝子診断・遺伝子検査をめぐる法律問題——インフォームド・コンセントと遺伝情報の守秘」宇都宮譲二監修／樋野興夫・湯浅保仁・恒松由記子編『家族性腫瘍——新しい研究動向と診療指針 (Molecular Medicine 別冊)』158～62 頁 (中山書店，1998-07)

「未成年者に対する遺伝子検査とインフォームド・コンセント」筋ジストロフィー研究連絡協議会編『筋ジストロフィーはここまでわかった PART 2』285～88 頁 (1999-01)

「臓器移植と法 (平成 10 年度夜間スクーリング総合講座『先端医療の現在——医と法と生命倫理』)」三色旗 617 号 29～43 頁 (1999-08)

「疫学の研究などにおける個人情報保護」公衆衛生 65 巻 1 号 67 頁 (2001-01)

(b) 判例評釈

「未熟児網膜症姫路日赤事件」年報医事法学 14 号 157～62 頁 (1999-07)

(c) 座談会・学会報告

「合衆国最高裁判所 1998-99 開廷期重要判例概観 (座談会)」アメリカ法 2000-1 号 1～39 頁 (2000-07)

「臓器移植法の諸問題——法的観点からの問題提起 (パネルディスカッション・脳死下臓器提供病院からみた臓器移植法の問題点並びに関連する諸問題——西暦 2000 年の臓器移植法の見直しについて)」第 13 回日本脳死・脳蘇生研究会誌 56～62 頁 (2000-10)

「精神科におけるカルテ開示をめぐる法的問題」精神神経学雑誌 103 巻 1 号 27～28 頁
(2001-01)

(d) 書評

「和田心臓移植——30 年目の事実／共同通信社社会部移植取材班編著『凍れる心臓』 (新刊ガイド)」法学セミナー 526 号 110 頁 (1998-10)

(e) 雑

「HAB 協議会学術年会に参加して」Human & Animal Bridge Newsletter, Vol.5, No.1, 4～5 頁 (1998-09)

「世界医事法会議」年報医事法学 14 号 176～74 頁 (1999-07)

「子どもの遺伝子検査と法律問題」教育医事新聞 184 号付録 3 頁 (2000-01)

「1997 年～1999 年医事法学文献目録第 1 表」(無署名)，年報医事法学 13 号 223～192 頁 (1998-08)，年報医事法学 14 号 263～39 頁 (1999-07)，年報医事法学 15 号 263～40 頁 (2000-07)

4. 学会報告・講演

- 「Brain Death and Organ Transplantation in Japan: The Enactment of Organ Transplantation Act of 1997」(1998-08, 12th World Congress on Medical Law [Siofok, Hungary]) (文部省国際研究集会派遣の助成を受けた)
- 「遺伝子診断・遺伝子検査をめぐる法律的問題——未成年者の場合」(1998-10, 第 10 回日本生命倫理学会年次大会 [神戸])
- 「臓器移植法の概要と成立の過程」(1998-11, [日本看護協会看護教育・研究センター] 看護トピックス：臓器移植法と看護 [神戸])
- 「脳死と臓器移植」(1998-12, 第 28 回広島医事法研究会 [広島])
- 「特別シンポジウム・病理解剖をめぐる法的諸問題——私法上の問題」(1999-04, 第 88 回日本病理学会総会 [東京])
- 「遺伝相談をめぐる法律問題」(1999-05, 遺伝相談医師再教育研修会 [東京])
- 「医療における自己決定と自己責任」(1999-06, 神戸大学公開講座 [神戸])
- 「出生前診断の倫理的・法的諸問題」(1999-07, 第 194 回医事法民事法研究会 [京都])
- 「子どもに対する遺伝子検査の法律問題 (共同報告・遺伝子検査——子どもの場合)」(1999-12, 第 29 回日本医事法学会総会 [東京])
- 「遺伝子診断の法と倫理」(1999-12, 神戸大学医学部公開講座 [神戸])
- 「パネルディスカッション・精神医療審査会の審査委員向けガイドラインについて——審査委員の果たす役割」(2000-02, 平成 11 年度全国精神医療審査会連絡協議会総会 [東京])
- 「臓器移植法の諸問題——法的観点からの問題提起 (パネルディスカッション・脳死下臓器提供病院からみた臓器移植法の問題点並びに関連する諸問題——西暦 2000 年の臓器移植法の見直しについて)」(2000-03, 第 13 回脳死・脳蘇生研究会 [檀原])
- 「精神科におけるカルテをめぐる法的問題 (パネルディスカッション・精神科におけるカルテ開示の条件整備について)」(2000-05, 第 96 回日本精神神経学会総会 [仙台])
- 「透析医療の法律問題」(2000-06, 第 45 回日本透析医学会学術集会・総会 [福岡])
- 「精神障害者の人権について」(2000-06, 07, 09, 平成 12 年度 [兵庫県] 市町精神保健福祉担当職員研修 [神戸, 和田山, 姫路])
- 「Ethics Guidelines and Principles for Genetic Research in Japan」(2000-08, 13th World Congress on Medical Law [Helsinki, Finland]) (ファイザーヘルスリサーチ振興財団平成 11 年度日本人研究者短期派遣の助成を受けた)
- 「遺伝子診断の法と倫理」(2000-08, 第 3 回家族性腫瘍カウンセラー養成セミナー [西宮])
- 「子どもに対する医療をめぐる法律問題」(2000-09, 第 42 回日本小児血液学会総会 [大阪])
- 「未来医療の研究と倫理と法」(2000-09, 大阪大学未来医療公開シンポジウム [豊中])
- 「臓器移植法と今後の課題」(2000-10, [日本看護協会神戸研修センター] 看護実践・臓器移植コーディネーターの役割 [神戸])
- 「脳死と臓器移植——臓器移植法の見直しの問題」(中山研一との共同報告, 2000-11,

第 12 回日本生命倫理学会年次大会〔旭川〕)

「先端医療技術に関する最近の政府指針におけるインフォームド・コンセント（シンポジウム・インフォームド・コンセント—実情，理念，法原則）」（2000-12，第 30 回日本医事法学会総会〔東京〕）

「医療と医学の法律問題—医療過誤責任，インフォームド・コンセント，個人情報保護」（2000-12，兵庫県立成人病センター院内研修会〔明石〕）

「個人情報保護と産業医活動」（2001-02，第 212 回日本産業衛生学会関東地方会例会〔相模原〕）

「医療における法律問題—医療過誤責任，インフォームド・コンセント，個人情報保護」（2001-03，神戸大学医学部附属病院院内研修会〔神戸〕）

5. 補助金，委託研究費，研究助成金

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)(2)「臨床試験をめぐる倫理的・法的諸問題の比較法的研究」（1998～1999 年度，研究代表者）
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)(2)「遺伝医学・遺伝相談に関する倫理的・法的諸問題の比較法的研究」（2000 年度，研究代表者）
- ・厚生科学研究費補助金厚生科学特別研究事業「疫学的手法を用いた研究等における生命倫理問題及び個人情報保護の在り方に関する調査研究」（2000 年度，主任研究者）
- ・小児医療研究委託費「胎児発育の機序と病態に関する研究」（主任研究者・堤治）の中の分担研究「胎児に対する診断治療に関する法的倫理的研究」（1998～2000 年度）
- ・厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業「疫学研究におけるインフォームド・コンセントに関するガイドライン案の評価および遺伝子解析を含めた疫学研究の社会的還元のあるり方に関する研究」（主任研究者・玉腰暁子）（2000 年度，分担研究者）
- ・日本証券奨学財団研究調査助成金「インフォームド・コンセントの法理—わが国の実態と医療決定のあるべき姿の追求」（1999 年 11 月～2001 年 3 月，代表研究者）

上記のほか，臓器移植（1998～1999 年度），精神医療（2000 年度）に関する厚生科学研究，筋ジストロフィーにおける遺伝相談に関する厚生省研究委託（1998～2000 年度）に各々協力研究者として，科学技術庁の委託を受けた三井情報開発「ヒトゲノムの研究開発動向及び取扱いに関する調査」検討委員会に委員として参加した。

なお，これらの補助金等による研究の成果として提出した報告書は，「3. 公表された著書・論文等」には掲げていない。

6. その他の学外活動

(1) 非常勤講師

1998～1999 年度に南山大学法学部において「英米法」を講義した。1998 年 10 月 19 日に慶應義塾大学通信教育課程夜間スクーリング総合講座「先端医療の現在—医と法と生命倫理」において「臓器移植と法」の講義を行った。医学部講義「全人医学」において，1999 年 6 月 4 日に「法律からみた生命と医療—脳死臓器移植と出生前診断」を，2000 年 6 月 1 日に「脳死と臓器移植」及び「クローン，ES 細胞，遺伝子研究に関する生命倫理」を講義した。

(2) 学会関係

日本医事法学会理事（全期間），日米法学会評議員（従前より 1998 年 9 月まで），同理事（1998 年 9 月～），日本生命倫理学会理事・評議員（1999 年 11 月～），法と精神医療学会理事（2000 年 3 月～）。日米法学会機関誌「アメリカ法」編集委員（全期間），日本医事法学会機関誌「年報医事法学」編集委員（全期間。1998 年 8 月から編集幹事），日本生命倫理学会情報委員会委員（2000 年 3 月～），法と精神医療学会機関誌「法と精神医療」編集委員（2000 年 4 月～）。

(3) 各種委員

神戸大学医学部医学倫理委員会委員（1998 年 7 月～），同遺伝子解析研究倫理審査委員会委員（2001 年 3 月～），同付属病院遺伝子治療臨床研究審査委員会委員（1999 年 3 月～）。

文部省学術審議会専門委員（科学研究費分科会，1999 年 1 月～2000 年 1 月），日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2000 年 1 月～2000 年 12 月）。

厚生省厚生科学審議会先端医療技術評価部会の下に設置された「ヒト組織を用いた研究開発の在り方に関する専門委員会」（1998 年 2 月～7 月），「生殖補助医療技術に関する専門委員会」（1998 年 10 月～2000 年 12 月），「疫学的手法を用いた研究等における個人情報保護等の在り方に関する専門委員会」（2000 年 3 月～2000 年 12 月）各専門委員，「ヒトゲノム解析研究に関する共通指針（案）検討委員会」（2000 年 8 月～2001 年 3 月）検討委員。

兵庫県精神医療審査会委員（全期間），神戸市精神医療審査会委員（全期間），神戸市立中央市民病院倫理委員会委員（全期間），兵庫県立柏原病院治験審査委員会委員（1998 年 11 月～），国立小児病院小児医療研究センター開放的融合研究推進制度評価委員会委員（1999 年 2 月～），放射線影響研究所被爆二世健康影響調査倫理委員会委員（1999 年 12 月～），医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構技術評価委員会専門委員（2000 年 5 月～2001 年 3 月），同機構技術評価委員会委員（2000 年 7 月～），同機構疾患ゲノムプロジェクト評価委員会委員（2000 年 10 月～），先端医療振興財団治験審査委員会委員（2000 年 11 月～），ヒューマンサイエンス振興財団資源供給審査委員会委員（2001 年 1 月～），同財団倫理審査委員会委員（2001 年 3 月～）。

7. おわりに

向後なすべき仕事としては，刊行後 11 年を経た講義案『入門アメリカ法』の改訂，遺伝医学・遺伝相談，臨床研究，生殖補助医療，精神医療の法律問題についての研究をまとめること，そして，わが国の医事法の英文概説書の執筆，と掲げることができるが，時間的，能力的そして身体的な制約を考えると，はなはだ心許ないものがある。